

第4次大阪府子ども読書活動推進計画（概要）

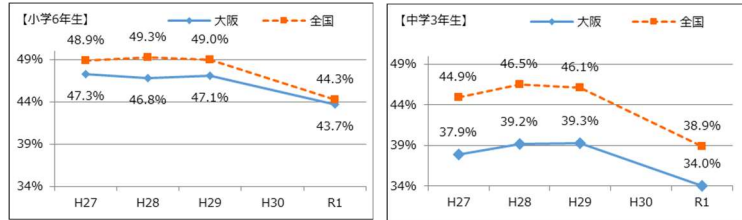
第1章 第4次大阪府子ども読書活動推進計画の策定にあたって

- ◆子どもの読書活動は、「豊かな心」や創造力や表現力等様々な力を育み、社会に出るための基盤を形成するとともに、人生をより深く生きる力を身に付ける上で重要なものであり、子ども一人一人に合った読書活動を行うことができる環境整備の実現に向けて取り組む。
- ◆国の読書計画や学習指導要領の改訂などの国の動き、府のこれまでの読書活動の取組、子どもの読書活動を取巻く社会情勢の変化を踏まえる。

第2章 第3次計画の取組結果と課題

第1 第3次計画における取組と成果

- ◆「本と出合うきっかけづくり」「本を読む習慣化」「読む力、考える力の育成」「読書環境を支える体制づくり」の4つの項目を柱に取組を実施。
- ◆成果指標（「読書が好き」な子どもの割合を全国平均以上とする）は達成できなかったが、第3次計画に基づく取組を実施した結果、全国平均との差を縮めることができた。



第2 子どもの読書活動の現状と課題

- ◆「読書をしない」主な理由は以下のとおり（R1 読書調査結果）
 - ・「時間がない」 → 読書時間を確保できない、読書のために時間を割かない
 - ・「読みたい本がない」 → 興味を持てるような本がない
 - ・「読むのがめんどろ」 → 本を読むことが面倒、文字を読むことが苦手
- ◆上記理由の分析結果
 - ・部活や塾などで、読書をする時間がない。
 - ・どの年代も、インターネット利用時間が増加している。
 - ・読書に興味や必要性を感じていない、インターネットでの SNS やゲーム、動画視聴など、興味・関心が他のところに向いていて読書のために時間を割かない中高生が多い。
 - ・本を読むことが面倒、文字を読むことが苦手な子どもが出てくる。
- ◆現状と課題を踏まえた施策の方向性
 - ・読書のために時間を割かない、興味を持てるような本がない、本を読むことが面倒など、発達段階によって異なる理由で読書活動ができていない子どもがいることを踏まえた方策を講じる。
 - ・第3次計画で行った発達段階や生活の場に応じた環境整備を基礎とし、第4次計画では、発達段階ごとの特徴を更に考慮しつつ、子ども一人一人に合った読書活動を進めるための取組を一層拡大する。

第3章 第4次計画の基本方針と重点的な施策

基本方針

発達段階や生活の場に応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境整備をするために、大阪全体で取組む。

視点

1. 発達段階の特徴に沿った読書活動推進
2. 読書活動ができていない（読書のために時間を割かない・興味を持てるような本がない・本を読むことが面倒）子どもへの読書環境整備

読書の位置づけ

読書概念を広く捉え、子どもが発達段階や生活の場の状況に応じて、自分自身に合った読書活動ができるよう「読書」を位置づける。

- ・本を読んだり、読んでもらったり、絵文集を見たり、図表を読み取り活用することも読書である。
- ・紙媒体だけでなく、電子媒体で本を読むことも読書である。
- ・本を一冊全て読むだけでなく、自分の興味や関心のある箇所を読んで知識を得たり心に留めることも読書である。

期間

令和3年度から令和7年度までのおおむね5年間

成果指標

読書のために時間を割かない、興味を持てるような本がない、本を読むことが面倒など、発達段階によって異なる理由で読書活動ができていない子どもを減らすという観点から、不読率の改善を成果指標に掲げる。

少しでも本を読む子どもを増やすことをめざし、計画期間最終年度までに「本を全く読まない子ども」の割合（不読率）を全国平均（令和元年度：小学6年生 18.7%、中学3年生 34.8%※）以下とする。

	小6	中3
全国	18.7%	34.8%
大阪	24.4%	44.8%

※全国学力・学習状況調査結果（文部科学省）による数値

R1 全国学力・学習状況調査結果

取組の柱

	ことばを知り	本にひかれ	本に出会い	本に親しみ	本に学ぶ
めやす姿	・文字やことばを知る ・ことばを聞きとる	・本で物語を楽しみたい ・本で何かを知りたい、調べたい	・楽しい本と出会う ・新たな発見ができる本と出会う	・読書を身近に捉える ・自らが好きな時に自由に本を読む	・本の内容を読み取る ・必要な情報を活用する
府の取組	子どもが文字・ことばを知るための取組	子どもが本に対して心惹かれるための取組	読書は良いと思える本と出会うための取組	子どもが自ら本を読むようになる取組	読む力、読み取る力、考える力を育成するための取組

発達段階ごとの特徴(次頁)を踏まえ、生活の場(家庭、学校、地域等)において、読書環境の整備のための具体的な方策に取組む

府の重点的な施策

1. 読書活動普及・啓発（えほんのひろば・ビブリオバトル大会等子ども向けイベントの実施、SNS やミニコミ誌を活用した啓発の実施等）
2. 乳幼児の時期の保護者や教育保育施設への読書活動支援（貸出し用図書セットの充実、ボランティア養成講座の実施等）
3. インターネットを活用した取組（府公式 Twitter でのおすすめ本紹介、読書イベントの動画配信等）
4. 支援が必要な子どもへの読書環境づくり（府立中央図書館における点字図書等の充実、子どもの状況に応じたおはなし会等の実施等）
5. 子どもに本を届けるネットワークの整備（特別貸出用図書セットの貸出、おすすめ本紹介冊子の作成等）
6. 子どもの読書活動を進めるための組織の設置（庁内子ども読書活動推進会議（WG）、大阪府社会教育委員会議）
7. 電子書籍の活用検討

第4次大阪府子ども読書活動推進計画 【子ども読書活動の推進に関する基本方針と重点的な施策を示す】(R3-R7)

	大阪府	家庭	地域	学校	公立図書館	民間事業者
責務・役割	◆子どもの読書活動の推進に関する施策を策定及び実施する	◆保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすことが重要	◆家庭や学校、図書館と連携し、地域ぐるみで子ども読書活動を推進することが重要	◆子どもの読書習慣を形成していく上で大きな役割を担う。 ◆学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、児童生徒の健全な教養の育成を目的とする。	◆地域における読書活動推進の中核的な役割を果たす。 ◆探していた本だけでなく、思いがけない本と出会い、自主的に読書を楽しむことができる場所	◆子どもの健やかな成長に資する書籍等が提供されることが重要 ◆子どもの読書活動の推進を社会全体で効果的に取組むためには、公民連携による普及・啓発が大切
取組	◆重点的な施策 ◆情報・人・本を届ける支援体制の構築	◆家読(うちどく) ◆図書館や書店の活用 ◆読書イベントへの参加 など	◆ボランティア養成講座への参加 ◆フォーラム・研修への参加 ◆地域での読書イベントの実施 など	◆フォーラム・研修への参加 ◆特別貸出用図書セットの活用 ◆図書館イベントの活用 など	◆読書イベントの実施 ◆協力貸出の活用 ◆メーリングリストの活用 など	◆商業施設等での読書イベントの実施 ◆企業広報を活用した読書活動普及・啓発 など

ネットワークづくり

学校図書館活性化ガイドライン(大阪府教育委員会 H23.3)

- ◆学校図書館は、「読書センター」「学習・情報センター」の2つの柱を持っており、児童・生徒に読書習慣を確立し、情報リテラシーを育成するためには、この2つの機能を活性化させることが大切
- ◆魅力ある学校図書館づくり、調べ学習などの授業における支援、学校図書館担当者の資質向上、公立図書館との連携、ボランティアなどの活用について記載

大阪府立図書館基本方針と重点取組業務(R1-R4)

- ◆府立図書館は、府域の子どもが豊かに育つ読書環境づくりを進めるとともに、国際児童文学館の機能充実にも努める。
 - ・府域の子ども読書活動を推進
 - ・広域自治体の図書館の視点から、学校等に対する支援を進める。
 - ・国際児童文学館資料の一層の活用を図る。

子どもの読書活動の推進に関する法律

- ◆読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。(第2条)
- ◆都道府県は、子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、子どもの推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない。(第9条)

学校図書館法

- ◆学校教育において欠くことのできない基礎的な設備である(第1条)
- ◆学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備(第2条)
- ◆学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない(第5条)

新学習指導要領

- ◆言語活動を向上させる重要な活動の一つとして、読書活動の充実と、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童・生徒の自主的、自発的な読書活動を充実させることを規定(小・中・高・支)

図書館法

- ◆健全な発達を図り、もつて国民の教育と文化の発展に寄与すること。(第1条)
- ◆図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。(第3条)